

## 環境問題シリーズ 第14章

## 日本の農作物は農薬漬け、食べて大丈夫？

地球環境に学ぶサークル 小田原 一博

(1)地球環境に学ぶサークルで、日本は農薬過剰使用であることを知りました。日本に旅行する外国人に配られるパンフレットに、「日本は農薬使用が多いので、日本では野菜は食べないように」と旅行会社が注意喚起しているそうです。

(日本農業再生論「自然栽培」革命で日本は世界一になる！ 高野誠鮮、木村秋則 討論集 より)

(2)サークルの読書会で読んだ堤未果(ジャーナリスト)著「日本が売られる」によると、日本は中国、韓国に次いで農薬使用量が多いようです。日本の食糧は世界に誇る安全なもの、根拠もなく信じていた私としては大変な驚きです。

(3)9月にサークルメンバーの勧めで「食の安全を守る人々」という映画を鑑賞しました。山田元農水大臣・弁護士が出演・監修した映画は、WHOが発がん性を認めたグリホサートを主成分とする除草剤ラウンドアップに関する内容で、米国から輸入した作物に多く残留していることを問題視しています。

(4)もっと農薬の実態を調べようと鈴木宣弘(東大教授)著「農業消滅」を読みました。2020年12月のNHKクローズアップ現代にも出演され、ラウンドアップの問題を訴えています。米国の小麦、大豆の農家は除草目的だけではなく、ラウンドアップを作物自身に散布して枯らした状態で効率よく収穫しています。しかし日本は規制するどころか、米国の要求でグリホサート摂取限界を6倍に上げました(2017年)。このため米国から輸入した小麦、大豆を用いたパンや豆腐に多く残留しています。韓国の学校給食は自国産小麦パンに切替えました。日本でも問題視されていますが、米国産小麦を用いたパンの学校給食はまだ規制されてません。



(5)近所のホームセンターで調べたところ、ラウンドアップと表記された除草剤が多数陳列されていました。庭の除草程度に使うならまだしも、家庭菜園の作物にまく人はいないと思いますが……。



農水省、学者、農薬業界は「一部の環境過激派が問題視するだけで、適正使用すれば心配ない」という見解です。原発の安全神話を作った「原子カムラ」と同じ構造の「農薬ムラ」が想起されます。

(6)問題は、国内で農薬を適正使用しても、米国から輸入する小麦、大豆は農薬漬けです。それどころか、鈴木教授によると、米国は米国内で食べる作物は無農薬化を進めているが、日本輸出用の作物は農薬漬けとのことです。欧州は早くから米国の農薬漬け作物の輸入を禁止しています。欧州に農作物を大量輸出しているタイは欧州規制に従って無農薬化を進めています。

(7)日本の食料自給率は極めて低く37%です。農薬摂取を避けるには、高くても国産の無農薬作物を食べるか、農薬漬け輸入品を買わない、という意識改革が必要です。ラウンドアップ以外にも、神経毒性ネオニコチノイド農薬、安全性不明な遺伝子操作品、成長ホルモン投与した牛肉等、米国産品は要注意です。

